

# Night Forum

ナイトフォーラム

## デザイナー小林幹也の 考えている事、実行した事

[講師] 小林 幹也 (デザイナー)

[期日] 2013年10月2日(水) [会場] KANAYAショールーム

各分野で活躍している人を講師に迎え、話題提供していただくことで新たなデザインの再発見や、デザイナー相互または異業種間での交流を図る「ナイトフォーラム」。プロダクトデザイナーであり、また「KANAYA」のメインデザイナーとして活躍する小林幹也氏を講師に迎えて開催しました。デザイントークでは、小林氏が自ら企画・デザイン・販売まで手掛けるショップ「TAIYOU no SHITA」についても語られ、その後の交流会でも参加者と親睦を深めました。

### デザインとの出会いは 素晴らしい椅子たちから

高校時代に武蔵野美術大学の島崎信教授の椅子に関する雑誌の記事を拝見したのがデザイナーを目指すきっかけです。人間は一日の中で座っている時間がすごく長いですし、椅子だけでなくそういう暮らしを支えるものをつくる職業があることをその時に知りました。

モノがあると、絶対に空間がある。空間があると絶対モノがある。そこに人が入っていて、その相互の関係は絶対切り離せません。つまり、モノが置かれる空間があるのであれば、その空間をデザインする観点からモノをデザインしてみたい。そういう考えで大学ではインテリアを専攻しました。

以前、イギリスの雑誌から「好きなデザイン



小林 幹也  
デザイナー。(株)小林幹也スタジオ代表。2011年、東京都目黒区にショップ「TAIYOU no SHITA」をオープン。

Photo by Yosuke Owashi

を5つ挙げてください」という寄稿の依頼がありました。そのうちの3つを紹介したいと思います。まず、ハンス・ウェグナーというデンマークのデザイナーのCH-20という椅子です。シンプルで一見地味と感じるかもしれませんが、座り心地も良く、見えない所に技術が詰まっています。かつ技術を前面に押し出さない。使う人のことを考えているデザインだと思います。

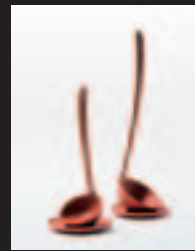
二つめは筆です。筆の持ち手のところの竹と、馬の毛で作られた先端部分。シンプルな道具でいて、先端部分に墨汁を浸して手に持った時の重量のバランスが好きです。その比重のバランスが書き心地の良さを生み出します。三つめは、自然。緑や海などに癒されます。自然からはデザインする時にいつも刺激やきっかけをもらっています。

### 転機となった作品たちと 出会った人たち

2005年に「UKI HASHI」をデザインしました。商品化にあたってはアッシュコンセプトの名見耶秀美さんが応援してくれました。その後、2007年にミラノサローネに遊具を出品して、サローネサテリテの賞も頂きました。次に一番大きな転機となったの



HARU Photo by Takumi Ota



TATE OTAMA  
Photo by Yosuke Owashi

が、2008年、旭川で開催された「国際家具デザインコンペティション」です。出品作品はすぐには商品にはなりません

でしたが、その後愛知県のカリモク家具さんよりお声がけ頂き、出品作を含めた「HARU」という家具のシリーズを手がけさせて頂いています。

富山と出会うきっかけになったのは「TATE OTAMA」という商品。2008年に出品して、グランプリを頂きました。富山市のusuiworksさんとOSBを使った小物や家具のシリーズをやったり、旭川のドリーミー パーソンさんと「kime」シリーズを立ち上げました。ほかにも、タカタレムノスさんの「IKI」というアルミと真鍮の鋳物のシリーズや、大阪のアイワ金属さんより「Timbre」のドアチャイムなども手がけています。

### 最大公約数から生まれるデザインは 欲しいデザインにならない

全ての使い手の要望を踏まえたデザインを起こしても、結果的に誰も欲しくありません。デザイナーもメーカーも「これがいい」と自信を持って追求していくことが大切です。だからこそ、常にメーカーさんとはコミュニケーションをとりながら進めています。使い勝手を考えながらしっかり暮らしに馴染んでくれるようデザインを心掛けています。